

中国の大学院における「専門職学位」課程の拡大プロセス

黄 梅英 (尚絅学院大学)

中国の大学院教育における「専門職学位」課程は 90 年代初期の実験から始まって、今大きく拡大されてきた。では、高等教育の大衆化段階に入ってもない中国において、「専門職学位」課程はどのような背景の中で展開し、またどのようなプロセスで拡大したのか。これを検討することは本発表の狙いである。

1. 中国大学院教育の構造変化の背景

量的拡大

中国の大学院教育の発展は「文化大革命」終結後の 1978 年から始まったといってもよいだろう。経済の復興と同時に、人材養成のための教育復興・拡大が図られ、1978 年の大学院生募集の回復と 1981 年の中国の学位制度の確立によって、80 年代の半ばごろまで量的拡大がみせた。とくに大学院教育の急激な拡大を遂げたのは 2000 年以後となった。それは高等教育の入学定員を増やすことで、授業料という家計からの教育投資を増やし、社会全体の消費を促すという認識から、1998 年に高等教育の拡大が政策的に打ち出された。大学院の入学率は 1999 年から 2003 年まで平均年増加率が 23% を越える速いスピードで進められてきた。

また、1990 年代初期からの市場メカニズムの導入によって、無償教育の「国家計画学生」の他に、授業料を徴収する「自費学生」も募集するようになり、その後の大学院教育拡大の部分大半はこの「自費学生」によるのである。

構造的特徴

専門類型別みれば、90 年代の半ばまで工学、理学、理学はトップスリーとなっており、特に工学は今まで断然トップの位置を占めているため、中国の大学院教育は明らかに理工系重視・実学重視の構造を持っているといえよう。

また、社会人学生が多く入学していることも中国大学院教育の一つの特徴である。80 年代のはじめごろに、臨床医学やエンジニア系工学など実践的性格の強い領域において、専門的職業経験、あるいは社会経験のある社会人を入学させるのが望ましいという意見はすでに教育関係者の間に出された。人材育成のあり方や教育の質向上の観点から、大学院入試における年齢制限の緩和や職業経験者向けの「単独試験」の導入

など、入試条件と選抜方法などの配慮政策が次々打ち出された。それによって、職業経験者の入学が増え、1987 年に修士課程の職業経験者はすでに半数を超えるまで拡大されたのである。

2. 「専門職学位」課程導入

上からわかるように 80 年代までの中国の大学院教育は研究者・教員養成と同時に、高度な職業人養成も念頭に置き、二つ機能を持ち合わせるように進められてきたが、明確に区分されず、曖昧な状況であった。90 年代の初めごろから「専門職学位」課程の設置を本格的に取り組み始めた。

1) 従来の大学院社会人教育の進化

それまでに応用的・実用的な高度な職業人の育成には「職業経験者」を入学させ、学生構成を調整することによって実現するための取り組みであったが、それ以後は教育カリキュラムの改革・再編など、教育の中身に特徴を持つ「専門職学位」プログラムの導入により進化した形で進めていくことになった。「専門職学位」プログラムはアメリカのプロフェッショナル・スクールから学んだものであるが、中国の応用的・実用的学問を重視する考え方と見事に合致したため、スピード速く展開したのである。

中国の実践重視の教育伝統があった故に「専門職学位」課程はスムーズに展開できたかもしれません。

1991 年から 2007 年まで実施された「専門職学位」課程は工業・商業管理修士 (MBA)、建築学士、建築修士、法律修士、教育修士、エンジニアリング修士、臨床医修士、臨床医博士、獣医修士、獣医博士、農業推進修士、公共管理修士 (MPA)、口腔医修士 (SMM)、公共衛生修士 (MPH)、高級管理者工業・商業管理修士 (EMBA)、軍事修士、会計修士 (MPA)、体育修士、芸術修士 (MFA)、風景園林修士、中国語国際教育修士 (MTCOL)、翻訳・通訳修士 (MTI) である。

2) フルタイムの「専門職学位」課程での出発

これまでの社会人教育の継承として、中国の「専門職学位」課程はフルタイムコースから出発したことがもう一つの特徴はである。

上述のように、応用型専門家養成の視点に基づき、80年代初期からの職業経験者の大学院入学の推進によって、職業経験者の入学は急速に増えたが、そのほとんどは仕事を離れ、新規大卒と一緒に勉学するフルタイムの学生になっていた。しかも、彼らが勤めていたときの賃金に相当する金額の生活補助や奨学金が与えられていた(黄 2008)。「専門職学位」課程を設置する際に、こういった社会人教育のフルタイム学習形式もそのまま継承したのである。

1998年に初めて「専門職学位」プログラムを中心に在職者ためのパートタイムコースを設けるようになった。パートタイムであるために、修学年限は通常のフルタイムコースより1年間長く設定されている。そのコースを終了する際に学位が獲得できるが、フルタイムの学生と違って、修士・博士課程を卒業するという学歴が入手できないことになっている。

「専門職学位」パートタイムコースの開設によって、21世紀に入ってから中国大学院教育の構造を大きく変化させ、「アカデミック学位」と「専門職学位」という二元構造が出来上がった。

3. 「専門職学位」課程の拡大プロセス

このように中国の「専門職学位」課程は90年代の実験から大きく展開した。特にフルタイムコースの設置によって一層拡大した。では、その拡大プロセスにどのような特徴があるのか。

1) 上から下への進み方

中国の「専門職学位」課程の導入は上から下への形で進めてきた。関係事項はまず国务院学位委员会の会議で議論され、また各「専門職学位」課程の試行に当たって、当専門領域の関係官庁と協議したうえで、連名で通知が出され、さらに各「専門職学位」の教育指導委員会をつくることで、カリキュラムの要綱作りや教員の研修などを取り込んでいき、巡検、検定など評価の実施も行われた。他方、実態を見ながら制度づくりに着手することで、1996年に国务院学位委员会第十四回会議で『専門職学位の設置認可暫定方法』審議・通過した。

こういった上からの指導のもとで「専門職学位」課程よりスムーズに展開したと考えられる。

2) 実験的な試行を踏まえた展開

中国の「専門職学位」課程すべては実験を経ることとなっている。まず、専門分野の強い、レベルの高い大学から実験的に行い、後にその範囲をひろげ、正式な段階に入るというプ

ロセスを辿っている。

例え1991年に9大学がMBA課程の実験開始から、2001年正式な段階に入ったと宣言した時点で、すでに62の大学が実施するまで拡大した。

3) 質保障のための入試制度の整備

「専門職学位」プログラムの一次入試は次の二種類に分かれる。

その一つは1月に行われる「専門職学位」プログラムの共同試験で、その試験は「MBA 共同試験」(原語:MBA 聯考)、「法律修士共同試験」(原語:法律碩士聯考)などと呼ばれている、各専門別の全国共同試験である。その入試に参加する条件の一つは職業経験を持つことである。こういった専門分野ごとの一次試験を経て、その後の各機関の二次試験もパスした者がフルタイムの学生となる。

もう一つは10月に行われる「在職修士学位課程入学全国共同試験」(原語:在職攻讀碩士學位全國聯考)で、いわば「専門職学位」プログラムのパートタイムコースの全国統一試験である。それは大学院修士課程の入学資格試験(GCT)であり、在職者の大学院入学のために2001年からスタートしたものである。

このように、中国の大学院入試にはなんらかの形で統一試験や共同試験が行われていることは特徴である。それは教育の質を保障し、大学院教育の健全な発展を図る重要な措置として実施されている。

4. 今後の課題

中国の大学院教育の質の保障に入試の役割が大きい。それは本質にかかわる教育プログラムの編制や評価の運用など、他のシステムによる質保障がまだうまく機能されていないことも意味している。そのため、評価システムの機能を検討することは課題として残されている。

また、「専門職学位」課程のフルタイムコースとパートタイムコースという二重構造の解消にも注目したいと考える。

参考・引用文献:

- 黄 梅英「中国における社会人大学院教育の構造」『尚綱学院大学紀要』第56集 2008 161-174頁
李立国、詹宏毅 2009「比较視野下的我国研究生教育学科结构分析」『高等教育』人民大学書報資料中心